

## いじめ防止に関して、児童・生徒が積極的に関わる取組み（参考例）

子ども教育支援課 作成

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの防止に向けて「レッドカード」を活用する。</li> <li>・ 日ごろから全児童がカードを持ち、他の児童に不快な言動をされたときに、カードを示すことで、相手に思いを伝える取組み。</li> <li>・ 昨秋の試行を受けて、児童らは「嫌な気持ちを相手に伝えることができ、出された方も、何げない言葉が相手に嫌な思いをさせたと気付くことができた」と実感。</li> <li>・ 来年度から本格的に取り組む。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いじめをしません」という意思表示のため、児童がリボンを胸に付ける取組みを行う。</li> <li>・ リボンを付ける仲間を増やしていくことで、辛い思いをしている仲間が安心して生活できるよう取り組みたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年度、「なかよし宣言」として、各学級のいじめ防止スローガンの発表・掲示を行っている。</li> <li>・ 各学級の代表児童が集まる委員会でさらに話し合いを行い、学校としてのスローガンも決定し、そのスローガンのもと行動するよう児童会から訴える。</li> <li>・ 年度末には、年間の振り返りを行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふわふわ言葉」使用の推奨。</li> <li>・ 相手の気持ちを考えることで、みんなが仲良く安心して生活できるよう「ふわふわ言葉の日」を設定。オリジナルの歌も作成し給食の時間に流す。</li> <li>・ 活動の象徴となるオリジナルキャラクターを作り、「ふわふわ言葉」推奨の一助とする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市で推奨するプログラムを活用し、道徳や学活の時間に各学年・学級で児童が互いに関わりあう演習を行い、豊かな人間関係を構築していくことで、いじめの未然防止を図る。</li> <li>・ 児童会が主体となって毎月「挨拶運動」に取り組む、豊かな人間関係を構築していくことで、いじめの未然防止を図る。</li> <li>・ 異学年集団による交流活動に取り組む、豊かな人間関係を構築していくことで、いじめの未然防止を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有志の生徒がスクールバディ（お助け隊）として、いじめ防止の啓発活動や児童・生徒同士の悩み相談を行う取組みをしている。</li> <li>・ スクールバディがいじめを未然に防ぐための様々な企画を考え、学校や地域に情報を発信している。</li> <li>・ 実施校の中には、生徒総会での承認を得て、スクールバディを正式に委員会とした事例もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会が主導で携帯・スマホの使い道に係る心得を作成している。</li> <li>・ 生徒による生徒向け及び保護者向けアンケートの作成・実施。</li> <li>・ 作成した心得を保護者会で発表したり、学区の小学生に発信する。</li> </ul>

- ・ NHKいじめを考えるキャンペーンへの参加。
- ・ 「100万人行動宣言」記入用紙をNHKから取り寄せ、全生徒が自分で考えた宣言を記入し、その全てを校舎内に掲示することで、いじめ防止に向けた全校生徒の機運を盛り上げる。
- ・ また、生徒自らが地域のお祭りに出向いて、保護者や地域の方々からの署名を集める。

- ・ いじめ防止に向けて標語キャンペーンを実施。
- ・ 「みんなあなたが大好きだよ」「友達は、瀬戸物です」「いじめる人はいつでも冗談、やられる人はいつでも本気」「俺お前じゃなくてよかった」「今どんな顔しているか知っている」等いじめ防止を訴えるキャッチコピーを作成し、啓発している。

- ・ 中学校演劇部による「いじめ」題材の劇を上演し、解決の手前で終わり、その後どうするか、学級に戻って皆で考える取組みをしている。
- ・ 中学生が小学校で上演し、児童と生徒が話し合いをすることで、小中連携の一環にも有効となっている。